

福井みな子の市政報告

芦屋市議会議員

福井みな子



平成24年度第4回定例会は、12月3日（月）から12月21日（金）まで開催され、市長提出議案22件、請願1件、報告1件の審査が行われました。

病児保育

子育て支援のさらなる充実に向けて

～市立芦屋病院にて平成25年度上半期より実施予定～



今年度の6月、9月議会と毎回一般質問を行ってきた病児保育について、今回の一般質問でも取り上げましたところ、来年度上半期に開始予定との方向性を芦屋市が示しました。

病児保育とは、保育園・小学校に通園している子どもが病気になった時、子どもを一時的に保育する施設です。これは、国の「健康支援一時預かり事業」として開設され、自治体からの助成金で運営される施設で、子育て支援の領域の中で最も社会的取り組みが遅れているとも言われている支援です。

現在、芦屋市においては市立芦屋病院敷地内で病後児保育（病気やけがの回復期にあたる子どもを預かる施設）は実施されていますが、病児保育はまだ実施されていません。私が独自に神戸市の4つの病児保育施設を調査したところ、4施設あわせた芦屋市在住の登録者数の合計は、現在約80名でした。芦屋市の未来を担う子どもたちをこのまま他市の病児保育に預けてよいのかと疑問に思い、毎回一般質問を続けておりましたが、このたび、初めて芦屋市から方向性の提示があったことは、芦屋市における子育て支援の大きな前進と言えるでしょう。今後も、病児、病後児保育の一層の充実を見守って参りたいと思います。

他市における病児保育の現状

	施設数	利用料(1日)
西宮市	1	2,000円
尼崎市	2	2,000円
神戸市	11	2,000円

芦屋市の病後児保育のご案内(現在実施中)

児童が病気やけがの回復期に、他の児童との集団生活が困難なお子さまを一時的にお預かりする事業。

利用条件：芦屋市に在住する生後6ヵ月から小学校3年生までの児童で保護者が就労・疾病・事故・冠婚葬祭等の理由で保育が困難なこと

実施場所：芦屋市病後児保育ルーム 電話31-2217

利用時間：月～金曜日 7:30～18:00

利用定員：1日あたり3人

費用：利用料1人1日2,000円 給食費：500円

※問い合わせ 芦屋市保健福祉部こども課 電話38-2045



現在実施している市立芦屋病院「病後児保育室」

お詫びとご報告 ～決算特別委員会(9月)において「バス路線の拡大」を要望～

前回の市政報告(vol.6秋号)に、9月の決算特別委員会での私の質問内容と要望を掲載致しましたが、一部誤解が生じやすい表現があり、ご指摘をいただきました。「公共交通政策の確立について、現行の高齢者バス運賃助成制度は、バス路線のない地域に関しては、何のメリットもない不公平な事業」という表現には、「バス路線を拡大し、より多くの高齢者の方に公平に助成制度を受けて頂きたい」という意味を込めておりましたが、現在バス運賃の助成を受けている方にとって不快に感じられる表現であったと思います。ここに、改めてお詫び申し上げます。

現在、芦屋川以西は阪急バス路線がなく、路線の確保が求められていますが、市は、「バス事業者は道路の幅員問題や採算上の理由から、従来の路線を変えない」との回答を続け、コミュニティバスの導入も市の財政状況から困難であると主張しています。公共交通政策を考えていく事は市の重要な施策であり、阪急バスとは路線の見直しについて協議をすべきであると考えます。高齢化が進む中、市民生活の利便性の向上のため、バス路線の拡大実現を願います。



みな子の一般質問

病児保育の他に、次の2つの項目についても一般質問をしました

本会議で行う一般質問とは、議員が市民要望を交えながら、40分の質問時間の中で市役所側に質問や政策提言を行う事です。今年の6月議会より従来の一括方式(3回までの質問が可能)に加えて一問一答方式が加わりました。この方式の導入により、当局と議員間の短いやり取りで議論の焦点が明確になり、活性化が図られました。福井みな子は毎議会休むことなく、調査をして行政に質問を続けております。

12月議会における一般質問

一般質問の詳細については、市のホームページをご覧ください。



発達障害の支援体制について

Q 発達障害とは他人とのコミュニケーションがうまく取れない高機能自閉症や読み書きや計算が困難な学習障害を指すLD、また注意欠陥や多動性障害を指すADHDなどの総称。心の病気ではなく脳機能の障害が原因とされ、近年その研究が進められている。

発達障害を含め障がいを持つ児童生徒の教育については、特殊教育から特別支援教育(一人一人のニーズを把握して適切な指導や必要な支援を行う)へと転換が図られてきた。しかし、状況により、個々の指導や支援には格差があるように感じる。芦屋市では、小学校ではインクルーシブ教育(=多様なニーズを持つすべての子どもを対象とする教育)を推進しているが、中学校では一人一人の特性にあった支援が行き届いているのか。発達障害等により特別に指導・支援を必要とする児童生徒の支援体制について現状を問う。

A 人的環境整備として学校担任の他、特別支援教育支援員、介助員、教育ボランティアを配置して個別の指導、支援の充実を図っている。校内の支援体制として特別支援教育センターが中心となり支援が必要な児童生徒の教育的ニーズや課題を把握し、学校全体で情報共有を行い、個別の支援にあたっている。

公共建築物の木材利用について

Q 「公共建築物等における木材利用促進に関する法律」が平成22年に成立、施行された。我が国は戦後に造林された人工林資源の多くが利用可能な時期を迎えているが、木材需要は低迷し、木材価格は下落している。また、その影響を受けて森林の手入れが不十分になり、水源のかん養機能や土砂災害対策機能の低下、地球温暖化等が懸念されている。この状況を克服するために、木材利用を促進させて、林業の再生を図ろうというのが、上記の法律。

この法律に基づき、林野庁からは、市町村基本方針の策定を進めるようにとの働きかけがあり、公共施設や民間建築物への木材利用の推進が期待されている。県内の各市町村でも方針の策定が進め始められている今、芦屋市としても何らかの策定を進めていくべきであると思うが、公共建築物における木材利用の促進についての見解と今後の計画について問う。

A 芦屋市の方針の策定に関しては、近隣市の対応を参考にしながら25年度中には策定を進める。

なお、建物本体の木造化に関しては、防災面やコストの観点から積極的に進めるのは難しいが、建築物の用途やコスト等を勘案しながら、県産木材の利用を含めた木質化を進めていきたい。

♡私の考え

<発達障害の支援体制について>

障がいのある生徒に対しての指導や支援の内容には、住む地域や対応する教員の力量によるばらつきや格差が生じてはならないと考えます。

今後、出来るだけ各状況に応じた、きめ細やかな指導の実践を期待します。

♡私の考え

<公共建築物の木材利用について>

建築物に木材を利用する効果として、鉄筋コンクリートに比べて室温と床や壁付近の温度差が少なく体感温度が高くなる事、湿度変化を緩和させ快適性を高める事などがあります。また、学校の校舎においては、鉄筋コンクリート造校舎に比べ、子どもたちの意欲や集中力が上がる、情緒不安の子どもの割合が少なくなると言われています。また、インフルエンザの蔓延が抑制される傾向があるので、インフルエンザによる学級閉鎖率が低くなるとのデータも出ています。

今後芦屋市において建て替えが予定されている竹園集会所等について、内装の木質化を進めてほしいと思います。



編集後記

皆様お健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

早いもので今年は議員3年目の年を迎えます。昨日より今日、今日より明日がより快適に安心して住み続けることができるよう、今年もあきらめず、へこたれずに前向きな提案を続けて参ります。平成25年は癸巳の年にあたります。癸巳は「万物が萌芽しやがて実を結ぶ時期」とありますが、国が栄え、すべての人々が平穏に過ごせる年であるように心よりお祈りいたします。

福井



これまでの私の一般質問

- 平成23年6月議会
 - ・高齢化社会の課題
 - ・子どもに関する医療費の助成
 - ・市民サービスの向上にむけて
- 平成23年9月議会
 - ・地域医療の取り組みについて
 - ・高齢者の肺炎球菌ワクチン助成について
 - ・介護ボランティア制度について
 - ・食の安全、食育について
- 平成23年12月議会
 - ・小中学校におけるキャリア教育について
 - ・職員の待遇向上にむけて
- 平成24年6月議会
 - ・消費者行政の充実について
 - ・病児・病後児保育について
 - ・奥池地区のヘリポート設置について
- 平成24年9月議会
 - ・高齢者の見守りについて
 - ・病児・病後児保育について

芦屋市議会議員 (イーブンあしや)
福井みな子 市政報告 No. 7 平成25年1月発行
 <芦屋市議会> 芦屋市精道町7-6 TEL : (0797) 38-2001
 <事務所> TEL & FAX 34-0240 <http://www.fukui-minako.com>
 E-MAIL : ashiya-shigi@fukui-minako.com

市政に関する皆様のご意見をお寄せ下さい。